

**東アジア地域における
“微地形”をめぐる価値と課題
—日本の農村地域の観察から—**

**2018年9月
韓国にて**

**東京農工大学名誉教授
農学博士 千賀裕太郎**

“東アジア『微地形』地域”の特性

『微地形』とは、細やかな地形のこと。

東アジアの半島(大韓民国等)や島国(日本、中華民国等)には、『大陸』にあるような大河川は無く、広大な平野も無く、その国土は、頻繁な火山・地震活動や強度の降雨等の影響下、いわば『微地形の集合体』をなしている。

微地形の優位性

こうした『微地形』地域は、一見、広大な大陸よりも不利な地形・地理条件に見える。

しかし、微地形は人間による土地利用が(大地形よりも)比較的容易で、むしろ歴史的には、かえって優位性が強かったと、理解できる。

そして、その微地形としての特性を、巧みに利用してきた、と言えるだろう。

**日本列島は傾斜のある微地形の集合体。
だから水田（初期は棚田）の形成が
歴史的に早かった！**

- **日本列島には、大陸にあるような、巨大河川や広大な平野は無い。山地が多く、また多くの小河川で区切られた、微小な緩い傾斜地が数多く存在する。これは地理学的には“微地形の発達”と言われる。**
- **微地形は、歴史的には、日本の国土における水田文明の展開を広範な地域で容易にした。**
- **古代の日本の「水田」の多くは、面積的には広い低平地（沖積平野）にではなく、内陸部の微地形の傾斜地に、棚状の水田（棚田）として開かれている。**

ところで

「水田地域」の新たな構築には、
水田造成、用水施設、排水施設が必須

- 1、ある範囲の土地を「畦で囲まれた田が棚状に集まる水田地域」に造成する（**水田造成**）
- 2、田に水を導くために、上流の河川に堰や溜池を建設し、そこから田までの用水路を建設する。
（**用水施設**）
- 3、稲の生育期に応じて、田の中の水の量を調節するため、および豪雨時等に水を排除するために、排水路を建設する。（**排水施設**）

日本列島では「**微地形**」が多いために、
まだ**経済**や**技術**が未発達な
古代においても、上記のような
水田開発工事が**(比較的)**容易だった。

- 日本への稲作の大陸からの初の伝来は縄文時代末期とされるが、本格的には、弥生時代である(BC.5~A.D3)。
- 弥生時代の水田遺跡は国内各地にあるが
多くは台地下等で、『湧水』のような安定した水が確保でき、かつ『洪水』の心配が少ない『微高地』としての『緩傾斜地』が選択されたのである。

次に、日本列島における『農業』と『文化』の深い関わりについて、お話しておきたい。

小学校低学年で習う
童謡に見られる
典型的な日本の
農村風景

春の小川

春の小川は
さらさら行くよ
岸のすみれや
れんげの花に
すがたやさしく
色うつくしく
咲いているねと
ささやきながら

春の小川は
さらさら行くよ
えびやめだかや
小ぶなの群れに
きょうも一日
ひなたでおよぎ
遊ぶ遊べと
ささやきながら

この歌詞に込められた“地域情報”

小川の流れの「音」：サラサラ

岸のスミレ：青い色の小さな花が咲く岸辺

レンゲの花：レンゲは空中チツソを土中に定着
肥料の一種としてレンゲの種を田に蒔く

メダカ・コブナ：小さい魚が泳げるくらいの流速

これだけの情報があればこの地域の
原風景はかなり描ける

乳深真美さん作画の『春の小川』

- 私の研究室で博士を取得した弟子
- 二科展（日本の一流絵画の展覧会）入選の
実力ある芸術家
- 現在、新潟県佐渡島に在住



春の小川

春の小川は

さらさらいくよ

岸のすみれや

れんげの花に

すがたやさしく

色うつくしく

咲いているねと

ささやきながら

春の小川は

さらさらいくよ

えびやめだかや

小ぶなの群れに

きょうも一日

ひなたでおよぎ

遊べ遊べと

ささやきながら

東アジアの伝統的な『国土利用』 “自立的農村地域”の姿

食糧・エネルギーの自給
個性豊かな文化
多様な生態系の保全・育成
地域資源の保全・利用

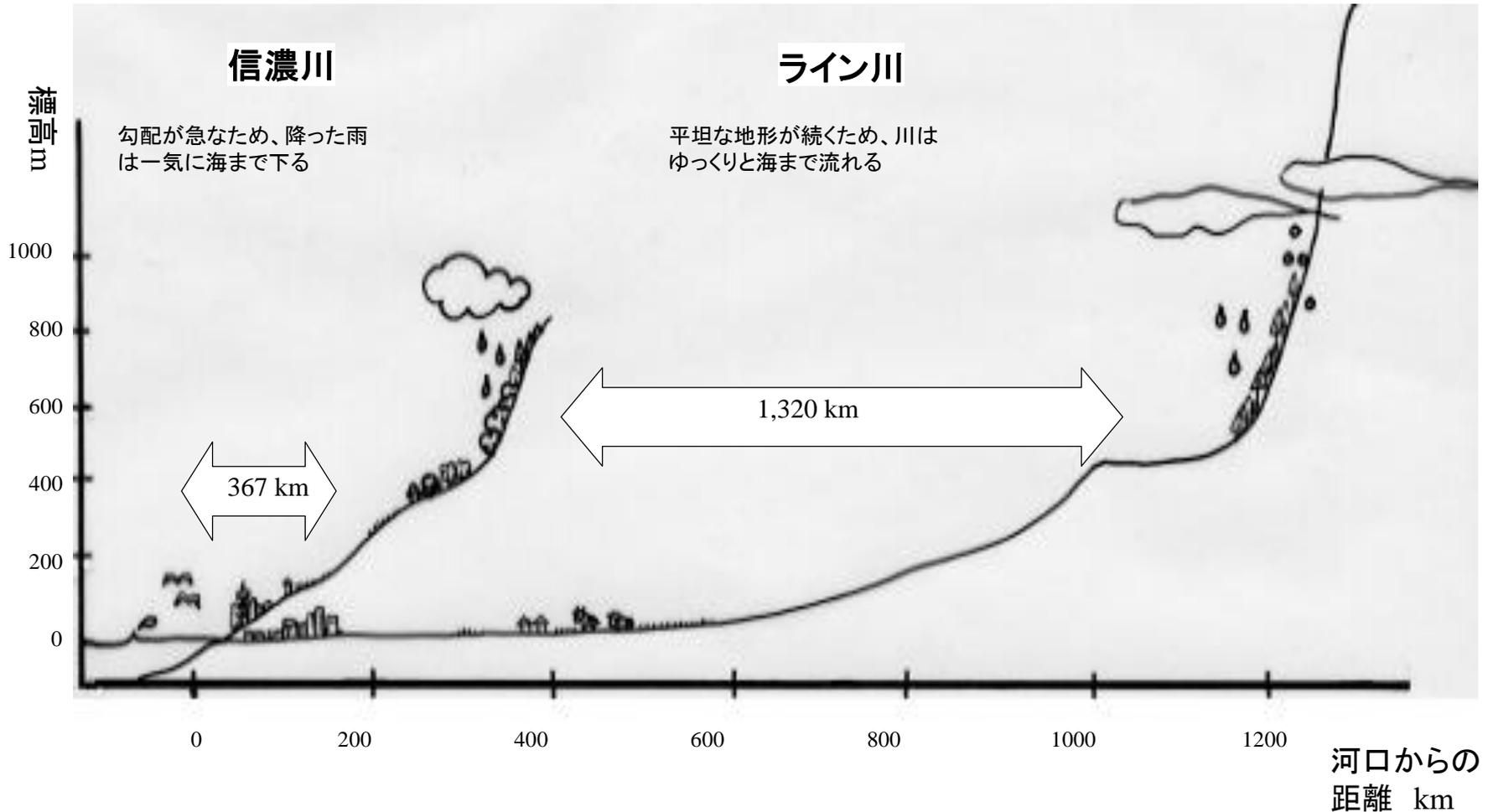
日本列島を例にして詳しく見ると……

火山列島上の細長い日本の国土利用の特徴は？

中央の脊梁山脈に端を発する川が形成した平地

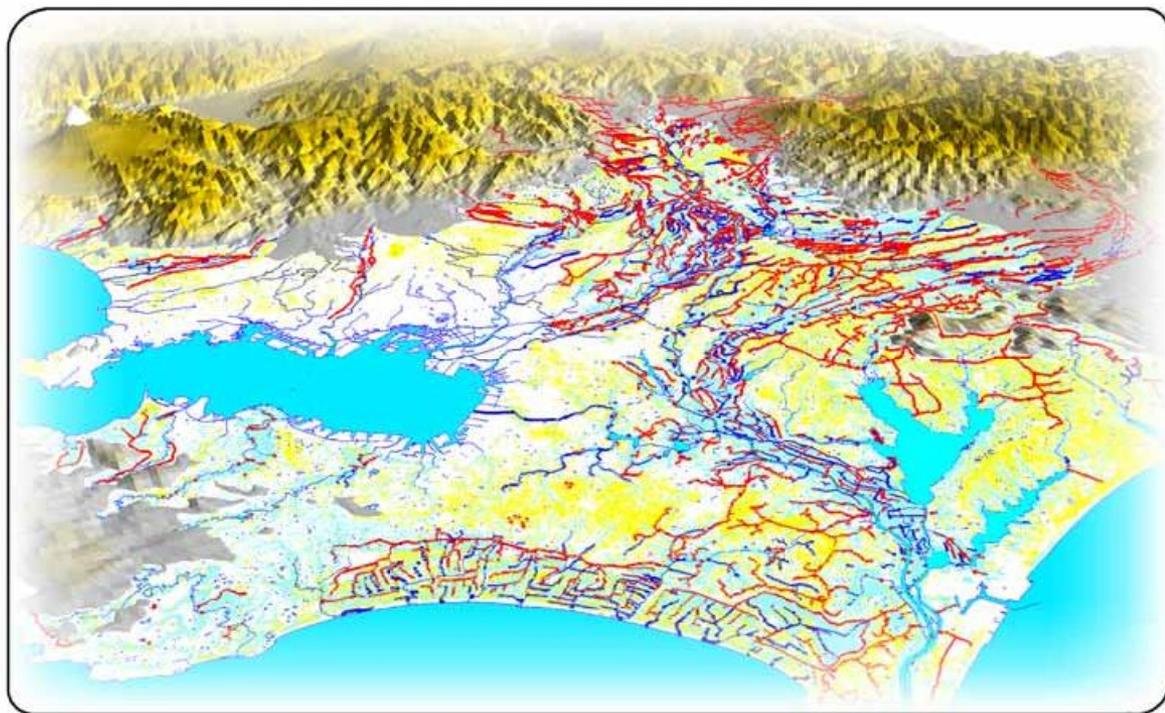
急で短い日本の川—洪水と渇水の対策原理

「水をゆっくり流す3つの工夫」



第1の工夫：横向きに流す

横向きの“**用水路**”をつくって水をゆっくり寄り道させた。
日本の農業用水路網は主なものだけで総延長約40万km
(地球10周分)にも及ぶ。国土の**毛細血管**みたいだね！



第2の工夫：一度とめる

ため池や**棚状の水田**に水を蓄えた。ため池は全国に約21万箇所、水田は約261万haある。



第3の工夫：地下を流す

降った雨を地下にしみ込ませ、水を蓄える**森林**を大切にした。**地下水**はうんとゆっくり流れる。

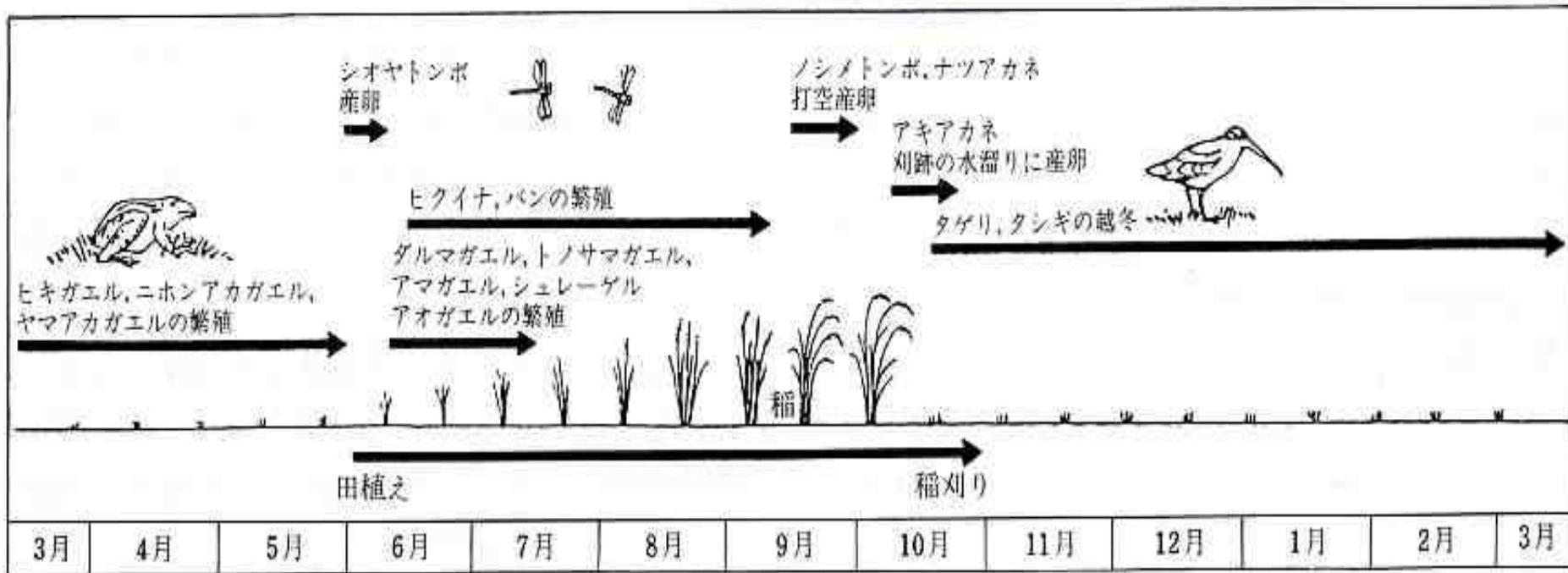


韓国、日本、台湾、インドネシアなどの
米作地域に共通する地域形成の基盤は

「**地表を流れる水の緩速化**による
安全と水田生態系の構築・維持」

水田での農作業カレンダーと生き物の生活

生態学的に重要な二次的自然を育てて来た水田



(守山弘 1995)

魚類の移動から見た水路の位置付け (矢印の方向が産卵の場)

代表魚種	海	川	水路	水田
降海型イトヨ	→			
陸封型イトヨ			↻ (湧水地帯)	
コイ・フナ類		→		
ナマズ		→		
ドジョウ・メダカ			→	
タナゴ類			↻	

端(1997)をもとに作成

水田・雑木林は「非・反自然」ではなく
「親自然」「共生自然」「二次的自然」
として持続的な恩恵を
人間社会に もたらしていた

むかしから**子ども**らは
大人の仕事を“**手伝い**”
生き物とともに
大いに“**遊び**”
健やかに“**成長**”してきた

このように
伝統的な農村地域
を構成する自然的要素は
一次自然と二次自然からなり
人間社会全般を持続的に
支援してきた
「自然・人間共生地域」
であり「持続型地域」であった

総括 課題

都市(住民)は、自らのふる里であり、かつ自らの不足を豊かに補完してくれる伝統的な農村地域の「場所」としての価値を、しっかりと認識すること。

都市の中に、積極的に自然的・農村的・歴史文化的要素を取り入れて、子どもたちにとって豊かに成長できる場所性を確保すること。

ご清聴ありがとうございました

千賀裕太郎